

校長だより

白山市立鳥越中学校 No31 2021. 3. 11

令和2年度 後期生徒会目標
CONFIDENCE

～自分に自信を持ち、積極的に行動しよう～

校長だよりのカラー版はHPでみることができます

明日は卒業式

きのうで3年生は全員入試が終わり、あとは卒業式だけとなりました。進路決定組はおととい昨日と、自分たちの校舎をきれいに掃除してくれました。掲示物を外された壁に寂しさを感じます。それにしても徹底した掃除ぶりには感心しました。さすがです。本当に感謝です。

鳥中生へ3年生からのメッセージ

食堂前には3年生からのメッセージが掲示されています。一部ですが紹介します。3年生の思い受け止めてください！

短い時間でも毎日勉強する習慣をつけておくこと。受験勉強をし始めるときに勉強に集中してできるからです。

やっておけば良かったことは勉強です。少しでも勉強を早めに始めていたら、高校の選択肢が増え、自分が本当にしたいこと、なりたいものに少しでも近づくことができるからです。

いつでも、誰にでも、元気にしっかりと挨拶できるところが鳥中生の良いところだと思うので、その良さをこれからも続けていってほしいです。

どんなに苦しいことがあっても絶対にあきらめるな、そしたらきっと後悔のない学校生活を送れるから。そして一番大切なことは、友達を大切にすることです。

今までありがとうございました。1, 2年生と一緒に過ごすことができてとても充実した日々を送れました。これからも頑張ってください！応援しています。

何事にも挑戦して失敗して挑戦してください。



輝きの中で

菊池唯子

生まれたい卵があるから
親鳥は温める

卵の中でつくひよこがいるから
親鳥もつく

一粒の種に詰まっている夢で
大地は温かい

厚い根雪は水のみなもと
はじけそうにふくらんだいのちが

あちこちで
時を待っている

ほんの少し
春を先取りして
校舎を巣立っていく君たち

その先の未来に
たくさんの手が待っている

いつでも
進んで身を開いていけるように
まっすぐに伸びて
まぶしいほどに大きくなって

そして 深い水脈では
いつまでもつながっていられるように

またいつか
会おう

まぶしいほどの陽射しの中で
輝き続ける
この 空の下で

東日本大震災から10年

10年前も3月11日は卒業式の前の日でした。卒業式の準備をしながら職員室で東北のほうで大きな地震があったらしいと知りました。そのうちテレビで仙台空港の定点カメラの画像が映し出されました。広い駐車場に流れこむ水と流されるたくさんの車。何が起きているのか理解するのに時間がかかったことを覚えています。

この詩は昨年も紹介しましたが、当時11歳の男の子が震災の年の秋に書いた詩です。震災の後どんな日々を送っていたのか伝わってきます。とくに最後の3行は、胸が苦しくなります。

10年目ということで、いつも以上に新聞やテレビで取り上げられています。目をそらさず自分事として考えてほしいと思います。私たちにできる応援をし、東北の方々が経験したことをいかし私たちも災害に備えることが私たちの責務だと思います。



かつて私が訪問した仙台市の中学校。5月から学校を再開しましたが、しばらくは体育館を段ボールで仕切った教室？で授業をしたそうです。



活躍の記録

○白山市ジュニア文芸賞 千代女部門

入選 尾西 航
竹田 陽葵

ユニフォーム脱いだその腕日焼けかな
夕焼けや去りゆく君のシルエット

『ありがとう』 菊田 心

文房具ありがとう

えんぴつ、分度き、コンパス大切にします。

花のなえありがとう

お母さんとはちに植えました。

花が咲くのが楽しみです。

うちわありがとう

あつい時うちわであおいでいます。

くつをありがとう

サッカーの時とってもけりやすく、
いっしょうけんめい走っています。

クッキーありがとう

家でおいしく食べました。

さんこう書ありがとう

勉強これからがんばります。

図書カードありがとう

本をたくさん買いました。

やきそば作ってくれてありがとう

おいしくいっぱい食べました。

教室にせん風機ありがとう

これで勉強はかどります。

応援の言葉ありがとう

心が元気になりました。

最後に

おじいちゃん見つけてくれてありがとう
さよならすることができました。

『ありがとうの詩』

(河北新報出版センター刊・2012年)より